

## 繁殖抑制を中心とした伊豆沼・内沼の外来魚駆除

(財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団 藤本泰文

オオクチバス *Micropterus salmoides* の防除を目的として、定置網や刺網を用いた駆除の他に、オオクチバスの繁殖抑制に焦点を当てて開発した人工産卵床を用いた駆除活動を宮城県の伊豆沼・内沼で実施した。

伊豆沼・内沼は、宮城県北部に位置する淡水湖沼で、水面面積は 387 ha ある。この沼で複数の方法を組み合わせた防除活動を実施した。定置網、刺網、人工産卵による駆除活動を、それぞれ 2001 年、2004 年、2007 年から実施した。定置網と刺網は 11-12 月に設置してバスを駆除した。人工産卵床は 5-6 月に設置し、バスが産卵した卵を駆除した。天然の産卵床でふ化した稚魚については岸際の群れを三角網で駆除して繁殖抑制を図った。毎年ほぼ同等の駆除努力を実施した。

定置網ではオオクチバスの当歳魚と 1 歳魚が主に捕獲された。定置網の CPUE は 2001 年から 2003 年にかけて増加し、設置した定置網だけではオオクチバスを抑制できなかった。人工産卵床を設置した 2004 年以降、定置網の CPUE は年々減少し、2009 年には 2003 年の 6%に減少した。人工産卵床におけるオオクチバスの産卵数と沼における稚魚の駆除数は、それぞれピーク時の 40%と 1%に減少した。繁殖期の駆除活動により、0 歳魚の加入が抑えられた結果、冬季に定置網で捕獲される当歳魚と 1 歳魚を中心としたバスの CPUE が年々減少したと考えた。成魚の生息数は人工産卵床や刺網の調査結果から、減少傾向にあることが示唆された。定置網におけるコイ科やハゼ科魚類などの漁業対象種を中心とした CPUE は、2000 年にはオオクチバス侵入前の約 1%に減少した。CPUE は 2007 年までは低い値で推移したが、2008 年以降急増し、2009 年にはオオクチバス侵入前の 59.1%にまで回復した。伊豆沼・内沼ではこれらの駆除活動によりオオクチバスが減少し、漁業資源が回復しつつあることが明らかになった。